

### 第3回藤沢市住宅都市地域コミュニティ調査委員会議事要旨

#### 1 日時

2017年（平成29年）1月23日（月）午前10時から正午まで

#### 2 場所

総合防災センター4階 災害対策本部室

#### 3 出席委員等

大江委員長，松本副委員長，宮垣委員，倉持委員，手塚委員，本田委員，岩崎委員，金子委員，高梨委員，井出住宅課主幹

#### 4 議事

##### (1) 調査研究の最終報告案について

事務局から資料1に基づき，調査研究の最終報告案について説明した。

（質疑等）

委員 コミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）とは，どのような人材の方だと思えば良いか。誰にでもできることではないので，具体的な確保の仕方が分かると良い。現状，どのような資格，経験等が必要となるか示せると良い。また，取組の方向性のスケジュール感について，付記されると良い。

事務局 CSWは，社会福祉士等が中心となる。市社会福祉協議会で採用している。

委員 行政のケースワーカーとCSWの違いは，法令，制度の専門性，公平性，個人情報保護の観点行政が強く，反面CSWは，ソーシャルワークとしての地域課題にどのように向き合うのかというところで視点が違う。現段階では地域に溶け込み，信頼を得る段階である。

委員 例えばお祭りであれば，当日だけではなく，準備から参加していくことが重要である。CSWは地域を巻き込んでいくことで，地域をつなげていくもので，地域づくりが主眼となっている。

委員 CSWは，住民からどのような存在として認識されるのが良いのか。  
事務局 よろず相談の人というイメージである。

委員 今現在，実践を経て，地位を確立していつている段階である。

委員 横浜市では地域コーディネーターという方がおり、地域コーディネーター同士が意見交換をしながら進めていくことで好事例が生まれてきている。藤沢市では、CSWは誰に相談するのか。

委員 CSWは市社会福祉協議会の職員なので、社会福祉協議会の中で会議等を行い、情報共有している。

委員 今後CSWは、13地区に拡大していくのか。

委員 人口の6%がCSWの支援が必要であると推計しており、12人のCSWが全市で必要と見込んでいる。

事務局 スケジュールについては今後整理していくが、来年度、(仮称)藤沢市住生活基本計画(住宅マスタープラン)を策定予定である。また、CSWについて、各地区への展開は今後も検討していきたい。

委員 本調査研究を具体的な施策に結びつけるようにしてほしい。

委員 第4章「課題に対する考え方について(A3ヨコ判)」において、仮説1と4が重複しているように見えるが、意図は何か。

事務局 仮説1は、「居場所」と「コミュニティ」がどのように結びつくかを意図している。仮説4は、持続可能なコミュニティを形成するため、住宅地の在り方を考えている。仮説4は、コミュニティを主眼とした住宅都市地域の形成(案)に修正したい。

委員 主軸は、持続できるコミュニティをどのように形成するかであるので、それをメインにした構成にしたほうが良い。その軸を形成する中で、福祉の支えあい、地域包括ケアシステム、住生活環境の項目があるような構成が良い。

委員 調査結果が施策展開に結びつくように、住宅マスタープランへの示唆の明確化等を行ったほうが良い。

委員 コミュニティにミッション型、テーマ型、地域型とがあり、テーマを融合させていくパターンと派生的に取り込んでいくパターンがあると思う。

委員 地域コミュニティ論において、米国における都市コミュニティとして、閉じている開かれている、結びついている結びついていない、という区別があるが、コミュニティは流動的であり静的に見れば区分は

できるが、いろいろな機能が派生していくということが望ましい形であると考えている。また、既存のコミュニティや組織でもコミュニティ機能を有しているのので、そうした役割を見出していくことが重要である。つまり、役割を明確化して、それに付随する機能にも焦点を当てるべきと考える。

委員 類型化の中でも役割を明確化し、分断されている役割組織をどのようにつなげていくかが重要である。

委員 4つの視点がなぜ必要なのか、仮説1から4の根拠となる説明が必要である。また、仮説検証から方向性への展開について、課題と藤沢市の強み、弱み等を記載していくべきである。その上で方向性を示していくべきである。

委員 仮説とせず、視点としていくのはいかがか。背景と視点のつながりを明確にし、その視点で調査を行った結果、課題（長所や短所）が出現し、それに対応した方向性を示すのはどうか。

委員 コミュニティの連携という観点では、コミュニティ同士を行政が取り持っているという点が藤沢市の特性ではないか。

委員 市民活動推進センターとしては、テーマ型、ミッション型のコミュニティを行っている人は、地縁団体と上手く関係性が作れていないケースがあると感じている。地区で割られると掴みようがないという状況である。市民活動推進センターを増設して、地縁とは違う人を呼び込んで、活動を促進している。福祉コミュニティという形になると福祉のイメージが先行してしまい、例えば環境、緑化などの団体が漏れてしまう。そうした分野の人を取り込んでいくことが重要となる。キーパーソンとして、折り合いをつけてくれる俯瞰的な視点を持つ人も重要である。アイデンティティを市民が持つことも持続可能性につながっていく。働いている時のコミュニティへの参加不足が、リタイア後においてコミュニティに参加する際に、上手く馴染めないことに影響している。シティプロモーションのアンケートでも、30代の藤沢への愛着が高い。こうした傾向も生かしていくことが重要である。また、元気な高齢者などの視点、若年流入者、子育て世代への視点も

重要である。

委員 住宅マスタープランの策定市町村が減っていて、その理由としては、住宅マスタープランの役割が変わってきているのではないかと思っている。住宅マスタープランではなく、住生活基本計画として策定されるべきと思う。

委員 コミュニティは社会において必要であるという前提で調査を進めてきたが、コミュニティが市民生活にどのような機能を果たし、いかに重要であるかということ定義すべきである。

委員 定義がうまくいっていないという前提からすれば、定義するのは難しい。強い社会システムでは担保できないという前提や、弱い社会システムがなければ困るというような記載の工夫をして欲しい。

委員 阪神淡路大震災や東日本大震災等で、コミュニティの大切さを感じたとするアンケート調査がある。必要性は感じ、何となく受益があるけど、参加していないという現状があるということ論理的に明示したらどうか。

委員長 本日の意見を踏まえ、調査研究の最終的なとりまとめをする。とりまとめに当たっては事務局と委員長に一任という形でよろしいか。

委員 異議なし。

## (2) 今後のスケジュールについて

事務局から資料2に基づき、同じく地域活性化センターから助成を受け調査研究をしている奈良県生駒市で開催されるシンポジウムに参加することを報告した。

また、資料3に基づき、藤沢市で開催予定のミニシンポジウムについて説明した。

以 上